

『与えられた役割、使命、生きる目的』～ やり抜く覚悟を決めて実践する ～

2023 年 8 月 15 日、京都市立病院がん医療連携センターの先生、看護師、スタッフの皆様と Zoom ミーティング『緩和ケア勉強会打ち合わせ』を行った。10 月 27 日京都市立病院で講演を依頼された。大変、貴重な会議となった。

この度、三笠書房から新刊『新渡戸稲造 ～壁を破る言葉～』が出版される運びとなった(画像)。筆者は、2007 年から新渡戸稲造(1862-1933)の『武士道』と内村鑑三(1861-1930)の『代表的日本人』と交互に毎月、読書会を開催している。

新渡戸稲造は満州事変(1931 年)が起こったのち、渡米して日米開戦を防ぐために手を尽くそうとした。『それがいかに徒労に終わろうが、自分の使命を果たそうとしたわけである。無駄だと思いつつ、やり抜く覚悟を決めて実践する……』そんな生涯をまっとうした人物だともいえよう。

国際連盟事務局次長の時代(1920-1926)に、ジュネーブで、当時の世界トップレベルの知識人であるアインシュタインやキュリー夫人など 12 名を集めて『知的協力委員会』(1922 年)をつくり、平和を追求した。今日のユネスコ(国際連合教育科学文化機関)に受け継がれている。また、事務次長時代に、バルト海のオーランド諸島紛争(1921 年)を解決した。オーランド諸島は 20 世紀初頭、ロシア革命を機にロシアからの独立を果たしたフィンランドに帰属していたが、住民は親近感を持つスウェーデンに帰属することを望み、そこで両国の間に紛争が持ち上がった。苦心を重ねた結果、オーランド諸島はフィンランドに帰属、公用語はスウェーデン語という『新渡戸裁定』になった。

新渡戸稲造は旧制第一高等学校校長時代、アパートを借りて、毎週木曜日午後、悩める学生たちのために、みんなが集まれる場所を提供した。進路や勉学のことで思い悩んでいる学生が相談したくなるような懐の深さ、そんな魅力を持った人物であったと言えよう。筆者は『与えられた役割、使命をまっとうすること、それが生きる目的である』との『新渡戸稲造の精神』を若き日に学び、『読書会』(2007 年)&『がん哲学外来』(2008 年)の開始に繋がったものである。

新渡戸稲造

壁も破る言葉



逆境に

立ち向かう者へ

40のメッセージ

Okio Hino

樋野興夫

順天堂大学名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事長

「天をうらむな」

「悲哀はあなたを強くする」

「それでも笑うことだ」

没後90年——いまこそ知りたい「希望の言葉」

「がん哲学」提唱者の医師であり、
新渡戸稲造研究の第一人者でもある著者が厳選

三笠書房